



総
長
日高
義博

明けまして、おめでとうございます。

正月の箱根駅伝では、わが大学のシンボル「S」の一文字を胸に刻んだ選手たちの姿がなく、寂しい思いをしましたが、来年は箱根駅伝に復帰してくれるものと期待しております。一方、昨年末から始まつた高校各競技の全国大会で



理事長
松木 健一

新年のお慶びを申し上げます。
1880(明治13)年、51人の
入学生から始まつた専修大学は今
年、創立147年を迎えます。こ
の間、「社会に対する報恩奉仕」

を建学の精神に、「賛美剛健・誠実力行」を学風に、そして21世紀に入つてからは「社会知性 (Socio-Intelligence)」の開発をビジョンに掲げ、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に、32万余の卒業生



四つの視点を大学づくりに

援をいただきながら、社会に立ち上げ、教育・研究機関としての役割を果たしてきました。社会の屋台骨を支える校友の方々が国内外を問わず、さまざまな分野で「建学の精神」を実践し、活躍されているという実績こそが、本学の歴史と伝統の証しと言えるでしょう。

現代社会では、情報を適切に判断するための基礎となる教養力と、自ら課題を発見し、解決する能力が必要とされています。それこそが専修大学が目指す「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」です。

大学を取り巻く環境は一層厳しさを増していますが、社会に貢献

嵐、田尻稻次郎、日賀田種太郎、駒井重格の意思を受け継ぎ、先人の教えを次世代に伝えるべく、「師資相承」の具現化を目指し、創立150年、そしてさらなる未来に向けてまい進する所存です。校友・育友の皆さま、オール専修でのご声援とご支援を賜りますようお願いいたします。

難局を打破するしなやかさ

会に出場しました。その活気あるプレーに元気をもらいました。創立者たちのサムライ・スピリットを背負っている専修人は、文武の両面において躍動する姿を、責任を負っています。このところ、文武両道において顕著な成果が現れてきています。

040年も間近であり、本学が創立150周年を迎える2030年までに、教育・研究の質を高め、かつ財政基盤を盤石にできるかが極めて重要です。

私学にあっては建学の精神が支柱になっていることから、大学の統廃合は容易ではありません。学

打破する底力と精神的しなやかさがあります。しかし、改革を主導するのは「人」です。オール専修の力を結集し、これから難局を乗り越えていかなければなりません。 「丙午年」にあやかり、飛躍の1年になるよう、心を新たに新春を迎えた次第です。

學長馬場杉夫

明けましておめでたば
れいあす。

部展開の再考、入学定員の適正化、それに伴う教職員数の適正化など、いずれも解決を迫られる難題です。1880（明治13）年に専修学校を創立し、高等教育制度が変転する中につけても、旧制大学から新制大学へと変革を実践してきたわが大学としては、難局を

を設ける必要があります。加えて、自身が成長したことに気づくためのフィードバックが欠かせません。講義はもちろんのことながら、留学、インターンシップ、PBLなど多くの機会が用意されていますが、学生がより積極的に取り組

歴史の重みを未来に向ける

いと思います。
専修大学は2030年に
創立150周年を迎えます。
これまでの卒業生や教員の
職員の努力が、政財界や
曹、スポーツ、その他での
地位を築き上げてきました。
た。歴史の重みを感じ
つ、未来に向けた活動に取り組んでいく必要がありま

な学生同士が交流し、社会の諸課題の解決の糸口をつけることができます。これらを支えるのが、S・データサイエンス教育です。迅速に情報を結びつけるとともに、エビデンスに基づいた分析を可能とします。卒業生と結びつくことで、課題解決の可能性をさらに高めることができます。

21世紀ビジョンである社会知性の開発のためには、在学期間に、人間的にも、知識・技能的にもしつかりと成長していかなければなりません。卒業までに、自身の成長を都度、実感できれば、厳しい体験を乗り越えることができるところに、社会の諸課題を自ら解決していく原動力になると考えています。

成長を実感できるようにするために、キャンパス内外に数多くの成長機会

機会が増えていきます。違法薬物等を撲滅させ、グリーンでクリーンな大学へ向けて一層、まい進していく所存です。